



## 勉強するためだけに学校に来るわけじゃない

福岡県高等学校教職員組合 猿渡 敦子

2月末に突然、政府から全国全ての学校への臨時休校の要請が行われました。福岡県では政府の要請に基づき、最初は春休みまで、その後GWまでと休校が延びました。さらに5月末まで延長と一旦決まった後に、非常事態宣言が解除されたという理由で急遽学校再開が1週間ほど前倒しとなりました。そして授業時間確保のために学校行事を削りに削り、夏休みも例年の半分以上に短縮されるという学校生活が始まりました。

3ヶ月近くに及んだ休校期間といきなり始まった遅い新学期。見通しの立たない状況に振り回された教職員も生徒も平気でいられるわけなどなかったと、学校再開後3ヶ月以上経った今、痛感しています。

Stay homeを真面目に守り、家からほとんど出ることなく休校期間を過ごしたことで、運動不足や心理的ストレスから起立性調節障害になった生徒。学校に行かない生活が続く中で、学校に行く意味が分からなくなって学校から足が遠のいた生徒。経済状況の悪化から、家庭の収入や自身の就職への不

安にさいなまれている生徒…。

そんないろいろな困難を乗り越えて学校に来た生徒を待ち構えているのは、感染対策のためのさまざまな規制です。授業中、休み時間、昼食時間…密を避けるための制約は、どれも学校での楽しいふれあいを奪うものです。

大人の一步手前という発達段階の高校生の多くは、この過酷な状況と折り合いをつけながらやり過ごすことができているように見えます。けれど就学前の子どもたちや小中学生は、身体的にも精神的にももっともっと大変な状況にいるのではないかと案じています。

学校は、偶発的な条件で構成された同年代のヒトビトが、ぶつかり合ったり協力したりすることで成長していく経験を保障する場です。「勉強するためだけに学校に来るわけじゃない」という生徒たちの思いを、「新しい生活様式」の制約の中でどう受け止めて返していくのかを、今、私は考え続けています。